

横浜市立大学学術情報センター

# 貴重書 月替わり展覧会リーフレット (175)

2026年4月の作品は  
「横浜遊里楼閣之図」  
— かつて横浜にあった遊郭 —

展示テーマ

～横浜の開港をともに歩んだ遊郭をみる～

1853年、ペリー率いる米国艦隊が来航し、開国を迫った。その翌年、この横浜の地で日米和親条約が締結された。さらにそこから4年後、日米修好通商条約を結ぶ他、英国、オランダ、フランス、ロシアとも条約（通称：安政五か国条約）を結び日本の国際交流が始まる。

この流れの中で、横浜の開港が取り決められた。多くの異人が流入してくるなかで、必要になってくるのが、社交の場であった。吉原と島原の二大遊郭が、当時の江戸と京都での社交の中心だった時代であることを鑑みると、それほど理解に苦しむ発想ではない。さらに、都市づくりに歓楽街は欠かせず、異人の遊興の場を限定することによって、一般人の生活を保護していた側面を評価せずに見逃すことはできない。

今回は、開港当時「異人」の社交の場であった遊郭にフォーカスして調査した。



「横浜遊里楼閣之図」(1枚)

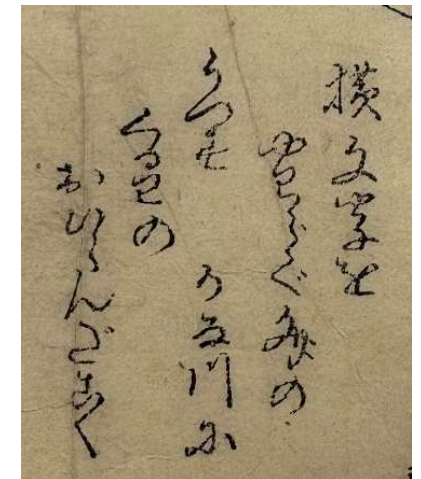
江戸末期

作者・版元・不明

縦 21.4 cm × 横 29.0 cm

上図が「横浜遊里楼閣之図」である。横浜での遊里の中で、外国人と遊女が楽しそうに会話しているシーンが描かれている。

右図は「横浜遊里楼閣之図」の左上に記されている崩し字である。



## 展示のみどころ

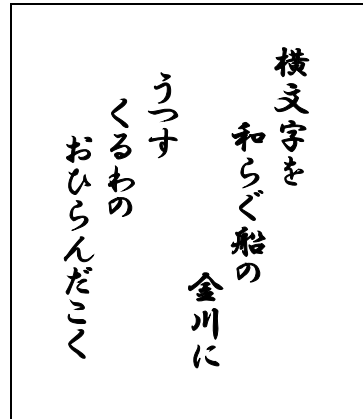
### ～絵に描かれた句～

「横浜遊里楼閣之図」に描かれている句を読み解き、全体の解釈を行うことで、この絵が描かれた意図を紐解きたいと思う。

### 横文字を

そのままの意味で、外国語（アルファベット、英語など）を指す。

開港地である横浜には、外国人居留地があり、外国の文化や言葉が持ち込まれていることを表現している。



### 和（やわ）らぐ船（ふみ）の

「やわらぐ」は、固いものが穏やかになる、または怒りなどが静まるという意味。「船の」は「文の」で、文字、書物、手紙、あるいは文化そのものを指す。

外国からもたらされた「横文字（異文化）」を、日本風に、あるいは受け入れやすいように、文字・文化として「和らげている」様子を描いている。

### 金川（かながわ）に

神奈川。この場合は横浜（神奈川の一部）を指す。開港地として異国情緒に溢れていた場所であった。

### うつすくるわの

「うつす」は「移す」または「写す」。

「くるわ」は遊廓・遊里（歓楽街）を指す。

異国の文化や風俗が、特に遊里という場所に「移されてきている」あるいは「模倣されてきている」状況を指すと思われる。

### おひらんだこく

これは洒落（ダジャレ）であり、当時流行した外来語の音を当てたものと解釈するのが自然である。

「おひらん」は場所が遊郭であるため、「花魁」を指す。

「おらんだこく」開国以前から、オランダとは取引があり、当時の日本人にとって異国と聞いて真っ先に想像するのはオランダであったというのは想像に難くない。

横浜の遊里が、まるで異国の雰囲気を取り入れた、オランダ（西洋）のような国（場所）になっているというユーモラスな表現だと解釈できる。

### 全体の解釈

開港によって急速に国際化し、異文化（横文字、外国の風俗）が流入してきた横浜の様子を、遊里（歓楽街）という娯楽の場を通して、風刺的に表現していると解釈できる。

### 参考文献

- ・鳥居民、『横浜山手、草思社、1977
- ・富田仁、『横浜フランス物語』、産業技術センター、1979

### あとがき ～貴重資料に触れて～

今回の講義で、貴重資料に触れるという貴重な経験ができてよかったと思う。毎講義前に手を洗い、細心の注意を払って貴重資料を扱わなければならない緊張感は、他では経験できないことであった。さらに、このリーフレットには関係ないが、『解体新書』にも触れることができ、嬉しかった。

※コレクションの閲覧は、作品保護のため、展示品を除き申請が必要です。また利用は学術研究目的に限らせていただいております。

※過去の展示はオンラインでも公開中です！

※第176回展示は令和8年5月上旬からを予定しています。



令和8年4月1日発行

令和7年度 日本文化史B受講生 編集

236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2

横浜市立大学 学術情報センター